



2011 年度教師海外研修 研修報告書・授業実践集



派遣国：サモア



2012 年 2 月

独立行政法人国際協力機構 兵庫国際センター
(JICA 兵庫)

後援： 外務省、文部科学省、各府県教育委員会、
各政令指定都市教育委員会、社団法人兵庫県私学総連合会

兵庫セ
JR
12-001

はじめに

2011 年は驚くべきニュースが世界中を駆け巡りました。

「アラブの春」と言われる民主化要求運動がアラブ社会に広がり、経済では円高、ユーロ危機が続いています。自然災害では、ニュージーランドでの震災に始まり、ミャンマー、タイ及びブラジルでの洪水被害、東アフリカでの大旱魃による食糧危機が起こっています。そして日本では、3 月 11 日に起こった東日本大震災や相次ぐ大型台風の上陸によって、未曾有の被害を受けました。特に東日本大震災では、世界中の国々と地域から、緊急援助や多くの支援、お見舞いを受取ることとなり、世界の中の日本、日本と世界との繋がりを改めて大きく実感しました。

それら国際社会との関係は、大きな出来事が起こった時だけ繋がることなく、世界で起きていることは我々の生活とも常に繋がっているということを意識化することが、とても重要であると考えます。

学校現場においても、従来の国際理解教育にとどまらず、地球規模の諸問題について主体的に取り組む地球市民を育てるための開発教育がますます重要になってきています。独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター（以下「JICA 兵庫」という。）は、教育現場からのニーズに応じる形で教育機関を対象に、開発教育支援業務を実施しています。JICA が考える開発教育とは、開発途上国の現状やそれらの国々が抱える開発問題について深く理解し、開発途上国と先進国の関係を含め、国際社会の問題の解決に向けて何らかの形で参加する態度を養うための教育です。JICA 兵庫は、兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会などと連携しながら、次世代を担う児童・生徒の育成のために様々なプログラムを用意しています。その 1 つがこの「教師海外研修」です。

JICA の教師海外研修は、単なる視察旅行ではなく、開発途上国で国際協力の現場や現地の人々の生活を視察し、その国の抱える開発問題に触れ、また、人々との交流を通して生活・文化の多様性を知ることができる研修です。海外研修で得た経験から気づき、感じたことを、児童・生徒及び同僚の学校教員に対して、授業やクラブ活動を通じて還元することを目的としています。そして現在、この教師海外研修に参加した教員が有志で OB 勉強会を立ち上げ、年に数回、独自に研究会を行っています。このように、海外研修を経験した教員同士が学び合い、お互いの経験を共有し、さらには地域で発信しているのです。開発教育の普及と促進には、教育現場で活躍する教員の力が不可欠です。今後もそうしたネットワークが継続し、地域での開発教育の指導者として、その経験を大いに発揮してくださることを期待します。

2011 年度は、7 人の教員が 9 日間サモアに滞在し、国際協力のあり方、サモアの文化や伝統、環境問題など多くのことについて学び、感じ、考えていただきました。そして、本研修後は、その学びを児童・生徒に伝えるため、創意工夫した実践授業を行いました。

本報告書は、教師海外研修参加教員による帰国後の授業実践の教材をまとめたものです。本書が開発教育（国際理解教育）に関心をお持ちの教員の方々の一助となれば、幸いです。

2012 年 2 月

独立行政法人国際協力機構

兵庫国際センター

所長 佐々木 十一郎

目 次

はじめに	1
------	---

【第 1 部】教師海外研修概要

1-1 教師海外研修の趣旨	3
1-2 教師海外研修の目的	3
1-3 2011 年度教師海外研修の日程	4
1-4 2011 年度海外研修の概要	4
【写真特集】サモアで見たこと、感じたこと	6

【第 2 部】研修報告

2-1 事前研修	10
2-2 海外研修 訪問先所感	11
2-3 事後研修	14

【第 3 部】授業実践集

実践 1 「サモアと私と」	
稲崎 朋子 (西宮市立甲陽園小学校)	16
実践 2 「ひこにゃんサモアへ行く」	
藤田 利恵子 (神戸市立鈴蘭台小学校)	24
実践 3 「南の国サモア」	
小倉 寛樹 (明石市立野々池中学校)	32
実践 4 「豊かさって何?～色々な価値観～」	
小林 英里佳 (神戸市立白川台中学校)	40
実践 5 「教師海外研修(サモア)を終えて」	
瀧口 麻帆 (神戸市立長田中学校)	48
実践 6 「私が開発途上国サモアで感じたこと・考えたこと」	
西本 忠夫 (六甲中学高等学校)	56
実践 7 「サモアから学ぶエネルギー環境問題」	
壺井 宏泰 (兵庫県立北須磨高等学校)	64

【第 4 部】成果と課題

4-1 海外研修を終えて	73
4-2 同行者の視点から一言	77

【参考資料】

JICA とは	78
JICA 兵庫の開発教育支援事業紹介	79

本報告書に記載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。

【第 1 部】教師海外研修概要

1-1 教師海外研修の趣旨

本研修は、国際協力に関心があり、授業やクラブ活動などで開発教育や国際理解教育を実践している小学校・中学校・高等学校の教師及び教育委員会の指導主事を対象に、開発途上国で国際協力の現場や現地の生活実態を視察し、今後の授業に役立てる機会を提供することを目的とした研修プログラムです。

兵庫県からの研修参加実績

年度	参加者数	研修国：参加者内訳（人数）		
1996	2	タンザニア：高校（2）		
1997	3	ジンバブエ：中学校（1）	ベトナム：高校（2）	
1998	4	バングラデシュ：中学校（2）	メキシコ：高校（2）	
1999	0			
2000	3	モンゴル：中学校（2）	ケニア：高校（1）	
2001	4	ラオス：中学校（2）	ヨルダン：高校（2）	
2002	2	ドミニカ共和国：中学校（2）		
2003	6	ベトナム：小学校（2）	ラオス：中学校（2）	ケニア：高校（2）
2004	6	フィリピン：小学校（2） / 高校（2）		ラオス：中学校（2）
2005	6	タイ：小学校（2） / 中学校（2） / 高校（1） / 教育委員会（1）		
2006	8	スリランカ：小学校（2） / 中学校（1） / 高校（3） / 教育委員会（2）		
2007	8	インドネシア：小学校（4） / 中学校（1） / 高校（2） / 教育委員会（1）		
2008	7	インドネシア：小学校（3） / 中学校（3） / 高校（1）		
2009	8	ベトナム：小学校（1） / 中学校（2） / 高校（3） / 特別支援学級（1） / 教育委員会（1）		
2010	8	中華人民共和国：小学校（3） / 中学校（1） / 高校（3） / 教育委員会（1）		
2011	7	サモア：小学校（2） / 中学校（4） / 高校（1）		

※小学校については、2002年度から開始（2002年度は、兵庫県からの参加者なし。）

1-2 教師海外研修の目的

- ① JICA 事業の視察や JICA ボランティア（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア）・専門家などとの意見交換を行い、ODA（政府開発援助）による国際協力事業に対する理解を深め、日本とサモアとのつながりを知る。
- ② 現地の学校視察及び教員・ボランティアとの意見交換を実施し、サモアの教育事情を理解する。
- ③ 現地の人々との交流を通じて、サモアの生活・文化・社会事情を理解する。
- ④ 帰国後の授業実践に活用できる教材や物品を収集する。
- ⑤ 一連の研修を通じて感じたことや体験したことを基に、授業実践計画を作成し、各所属校で開発教育・国際理解教育の授業を実践する。
- ⑥ 本研修終了後も、開発教育・国際理解教育を継続して実施し、各所属校及び地域の教員に対して開発教育の普及を推進する。

1-3 2011 年度教師海外研修の日程

2011年									
4月	5月	6月		7月	8月		9月～12月	1月	2月
4/1	5/下旬	6/下旬	6/19	7/9～10	7/25～8/4	8/25		1/6	2/19
募集開始	書類選考結果通知	面接選考結果通知	第1回事前研修	第2回事前研修	海外研修	事後研修	授業実践	授業実践報告書提出	授業実践報告会
募集期間									
4/1～5/16									

1-4 2011 年度海外研修の概要

派遣国概要

国名：サモア独立国

首都：アピア

面積：2,840 平方キロメートル（鳥取県よりやや小さい）

人口：179,000 人

民族：サモア人（ポリネシア系）90%

その他（欧州系混血、メラネシア系、中国系、欧州系など）

言語：サモア語、英語（共に公用語）

宗教：100%キリスト教（カトリック、メソジスト、モルモン教など）

通貨：タラ（WST）

GNI：5.1 億米ドル（2009 年世界銀行）

1 人当たりの GNI：2,840 米ドル（2009 年世界銀行）

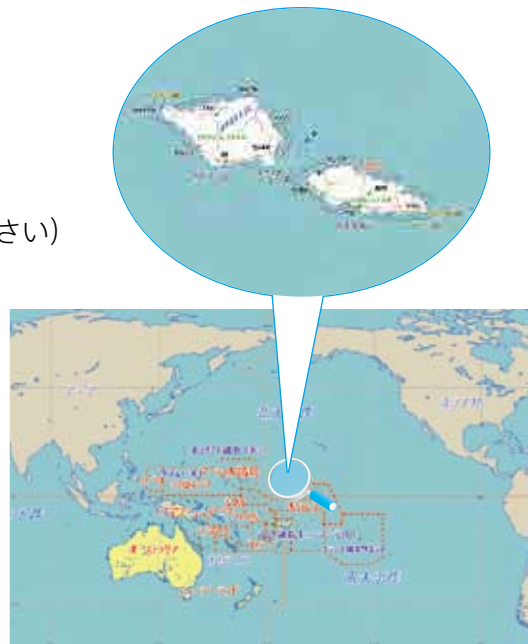
政体：立憲君主制

外交：ニュージーランド及び豪州との緊密な関係維持、南太平洋地域諸国との協力関係を重視、国連活動への貢献。

主要産業：農業、沿岸漁業

主要貿易品目：

- ① 輸出：魚介類、ノニ製品、ビール、ココナッツクリーム
- ② 輸入：食料品・食肉、機械・輸送機器、製造製品



(1) 海外研修日程表

順	月 日	曜日	日程	宿泊地
1	7月25日	月	関西国際空港出発(7/25)⇒香港到着(7/25)・香港出発(7/25)	機内
2	7月26日	火	ナンディ到着(7/26)・ナンディ出発(7/26)⇒アピア到着(7/25 深夜) カバの儀式に参加 JICA サモア事務所訪問 各自アピア観光及び授業準備	ウポル
3	7月27日	水	学校訪問及び授業実践 ① Moata'a Primary School ② Segaga Secondary School サモアダンス見物	ウポル
4	7月28日	木	学校訪問及び授業実践 ① Vaimea Primary School ② Lefaga Secondary School	ウポル
5	7月29日	金	Tafaigata 埋立地(技術プロジェクト)視察 国立公園視察(技術プロジェクト)視察 JICA ボランティアとの懇親会	ウポル
6	7月30日	土	ウポル⇒サバイイ ホームステイ	サバイイ
7	7月31日	日	サバイイ⇒ウポル	ウポル
8	8月1日	月	Aleipata 津波被災地視察 JICA サモア事務所(報告会) アピアを出発(深夜)	ウポル
9	8月3日	水	ナンディ到着	ナンディ
10	8月4日	木	ナンディ出発⇒香港⇒関西国際空港	

サモアで見たこと、 感じたこと

(写真のコメントは、参加者による。)

稲崎

▶日本のイメージを絵に
してもらった。子どもたち
の笑顔で私の緊張もほぐ
れた。



▲野菜マーケットで見つけた調理済
みのお惣菜。左から焼きバナナ、焼タ
ロイモ、焼ブレッドフルーツ

稲崎



▲Sagaga S Sでの教室の一場面。

小倉

「僕も勉強しに来たよ」という訳ではありません。
教室の中に、先生の子どもがお邪魔しています。これ
が、日常の風景。休み時間は、生徒が遊んであげます。
日本の働く母には羨ましい？光景でしょうか。



小倉

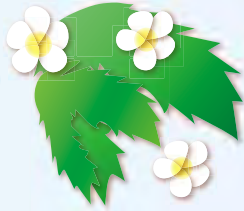
▲サモア伝統のウム料理。真っ赤に焼いた石の上に、ブ
レッドフルーツ、タロイモなどを並べて蒸焼きにします。
堂々と並んでいるのは、さっきまで走り回っていた豚さ
ん。丸ごと蒸焼きにします。塩味ですが、とっても美味
しいんです！



▲オーダーメイドのシャツやワンピースなどを仕立てるお店
で見つけた日本のミシン。今も現役で働いています。日本の製
造メーカーに問合せると40年前のミシンらしい。車をはじめ、
日本の中古工業製品は大活躍のようです。

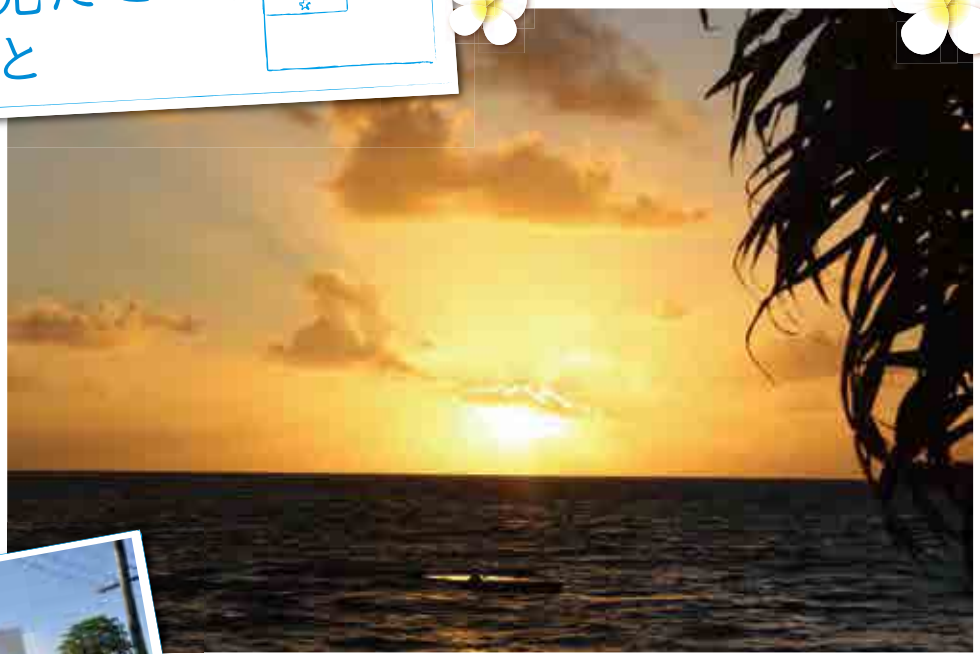
小倉

サモアで見たこと、 感じたこと



小林

▶ Savaii島の美しい朝日！



西本

◀ 借款に見合う効果があるのか。中国のODA実施現場。日本の存在感が霞むのも気がかり。

小林

▶ 教師の昼食は生徒や保護者が用意する。食事中は、生徒が給仕する。さらには教師をうちわで扇ぐ…。何だか申し訳ない気持ちになりましたが、これはサモアの文化だとおっしゃっていました。

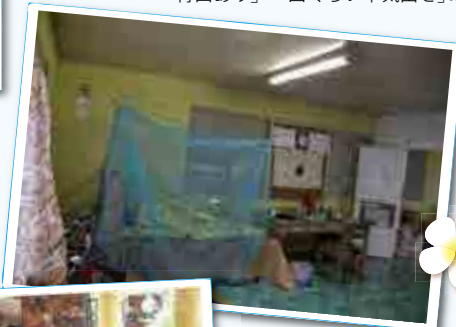


西本

▲ 息子は床に。左の女性は母親だが食卓につかない。主人と客の食事終了後、別の場所で食べる。

▼ 協力隊員の住居。日の丸の寄書と「人生到る処青山あり」「一回くらい本気出せ」の貼り紙。

西本



▲ ウポロ島唯一の火力発電所。あとは5か所に水力発電所がある。電力使用量が毎年増加していて、ときどき停電する。来年に新しい火力発電所がオープンする予定。

壺井



◀ サモアでの防災授業は私にとっては冒険でした。「非常持ち出し袋」に焦点を絞って授業しました。「もし、あなた達がこのバッグを作るなら何を入れますか？」を問いました。答えは「ココナッツ」「バナナ」！！

瀧口

サモアで見たこと、 感じたこと



▲こちらはLefaga Secondary Schoolで数学を教
えておられる青年海外協力隊の向井先生です。算数の
基礎基本が定着していない中で、優しく、丁寧に教え
ておられた向井先生の姿、まさに日の丸を背負った先
生です。

瀧口

瀧口

◀これはMoata'a Primary Schoolで一緒に折り紙を
折ってきた後の様子です。「カメ」「魚」を折りたい！と
サモアらしい一面を見た感じです。この笑顔を日本にも
届けたいです。

▶かごもココナツ
の葉であつという
間に編み上げて作
る。やがて土にかえ
る…。エコな生活。

藤田



壺井

▲ファレ(壁のない建物)の中での授業。田舎に
行くと、ファレの中で机もない状況で授業をし
ている。でも、みんな真剣に授業を受けている。



▲ サモア人はどんなごみも自然に返ると
思っているのかも…と疑いたくなる光景。

藤田



◀クリーンステーションは空
中である。その理由は、マチに
たくさんいる野犬の存在。

藤田

【第 2 部】 研修報告

参加者名簿

	氏 名	勤務先（学校名）	担当教科
1	稲崎 朋子	西宮市立甲陽園小学校	
2	藤田 利恵子	神戸市立鈴蘭台小学校	
3	小倉 寛樹	明石市立野々池中学校	保健体育
4	小林 英里佳	神戸市立白川台中学校	美術
5	瀧口 麻帆	神戸市立長田中学校	英語
6	西本 忠夫	六甲中学高等学校	地理歴史
7	壺井 宏泰	兵庫県立北須磨高等学校	理科

同行者名簿

	氏 名	所属先・役職名
1	秋山 玲美	JICA 兵庫 国際協力推進員

2-1 事前研修

第1回事前研修 6月19日(日)10:00から16:30まで 場所:JICA兵庫

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 参加者及び関係者自己紹介 | |
| ② 教師海外研修概要説明 | |
| ③ JICA 事業概要説明 | |
| ④ 現時点の研修国での日程説明 | 講師：JICA 担当者 |
| ⑤ ワークショップ | 講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト） |
| ・ 開発教育概論 | |
| ・ 持続可能な開発（研修テーマ）について | |
| ・ ワークショップ手法の習得 | |
| ⑥ 青年海外協力隊体験談 | 講師：中島健治氏（元青年海外協力隊員） |

今年度は、JICA 兵庫及び JICA 大阪が合同で教師海外研修事前研修を実施した。サモアコース 7 人、タンザニアコース 9 人、計 16 人での初顔合わせであった。JICA 事業概要及び本研修について説明を受け、開発教育がこういったものであるのか、またどのような手法があるのかを学んだ。

第2回事前研修 7月 9日(土)10:30から21:00まで 10日(日) 9:30から16:30まで 場所:JICA兵庫

【7月9日(土)】

- | | |
|--------------------|---|
| ① 学校現場における実践授業事例紹介 | 講師：大槻一彦氏（京都市立堀川高等学校） |
| ② 過去の参加者による報告 | 講師：加藤育子氏（大阪府立春日丘高等学校）
斎木英範氏（大阪府立北千里高等学校） |
| ③ 派遣国事情 | 講師：倉光ミナ子氏（天理大学地域文化学科） |
| ④ グループワーク | |

【7月10日(日)】

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ① 目覚ましワークショップ | 講師：JICA 担当者 |
| ② ワークショップ（貿易ゲーム） | 講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト） |
| ③ 渡航手続きについて | 講師：JICA 担当者 |
| ④ ワークショップ | 講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト） |
| ・ 海外研修の経験の整理 | |
| ・ 授業実践に向けたカリキュラム作り | |

第 1 回事前研修で学んだ開発教育を、実際に教育現場でどのように実践しているのかを聞き、また過去の参加者たちが海外研修での学びをどう教材化し、反省があったのかなどの報告を受けた。派遣国事情ではサモアという国への理解を深め、また、ワークショップを通して日本と他国とのつながりを知った。その後、参加者たちが帰国後にどのような授業を実践するのかを具体化する作業を行った。

2-2 海外研修 訪問先所感

海外研修 7月26日(火)から8月1日(月)まで

7月26日(火)

カバの儀式



【目的】サモアの伝統的な儀式に参加し、その伝統と文化に触れる。

最初は厳かな雰囲気緊張したけれど感動した。この感動を上手く表現できないけれど、彼らが大切にしてきた文化を体験させてくださったマタイ(村の首長たち)に感謝。この儀式は頻繁に行うものではないらしいけれど、サモアらしい文化をこれからも後世に継いでいってほしいと感じた。(小林)

JICA サモア支所



【目的】研修日程の説明及びサモアにおける JICA 事業について理解を深める。

サモア支所で派遣されている相葉支所長や職員の方のお話を聞いてサモアの現状を知る。

支援にもいろいろなやり方があるが、日本の行っている人道的な支援の成果は目に見えにくい。難しい問題である。(稲崎)

アピア市内視察



【目的】市内視察により、日本とサモアとの共通点や違い、文化を知る。

市の中心部は時計塔を中心に歩いて行ける範囲内におさまり、海岸沿いにはコロニアルスタイルの街並みが見られた。市場は活気にあふれていたが、一部では貧困の一面もみることができた。(壺井)

7月27日(水)

学校訪問
(Moata'a Primary School)



【目的】青年海外協力隊の活動現場を視察し、サモアの教育及び日本との違いを知る。

日本の古き良き学校の側面があり、先生の言うことをよく聞き秩序がある。子供は学校が好きである。教科書がなく復習困難、授業が一方通行で生徒の思考力や表現力、応用力を身につける機会に乏しいことが課題である。(西本)

学校訪問
(Sagaga Secondary School)



【目的】青年海外協力隊の活動現場を視察し、サモアの教育及び日本との違いを知る。

足元は穴だらけで、天井が落ちそうなホールに集まってきた生徒たちは、とても純粋だった。日本の小学4. 5. 6年生の反応に感じた。サモアでは「garbage」を「rubbish」ということや、サモアの風土やごみ問題に対する意識が日本とは全く違うことにも気づき、授業では伝えたいことが伝えられなかった。

教職員の食事(今回はウム料理)を授業時間に生徒が用意していることや、生徒が給仕したり、食事中うちわであおいでくれたことに衝撃をうけた。しかし生徒たちは本当に純朴だった。教頭先生の指揮のもと、素晴らしい歌声に感動した。(藤田)

7月28日（木）

学校訪問
(Vaimea Primary School)



【目的】 青年海外協力隊の活動現場を視察し、サモアの教育及び日本との違いを知る。

規律が厳しい学校で、よく生徒がしつけられていた。その反面、生徒は自分を表現することを許されていない様子だった。ムチをもって生徒を見張り、少し声を上げて笑ったり、教師の目に留まった生徒は叩かれていた。

美術の授業では、福笑いでおもしろい顔をつくろうと言っているのに、教師が「違う、右だ、もっと右！」などと口を挟んできて、子供たちの笑顔が消えてしまった。失敗して笑うのが福笑いなのに…失敗は許されない様子。

絵を描かせたときも、ちょっと上手く出来ない生徒の作品を取り上げ、教師が描いてしまうのには驚き…失敗はゆるされないのだ。（小林）

学校訪問
(Lefaga Secondary School)



【目的】 青年海外協力隊の活動現場を視察し、サモアの教育及び日本との違いを知る。

海を望むファレが教室だった。数学と理科の授業を見学したが、理系の授業は苦戦しているようだった。生徒が、教師の昼ごはんの準備、後片付けをしていたのが印象的だった。歌が上手で、日本の歌を紹介するとすぐに覚えて歌ってくれた。（壺井）

7月29日（金）

Tafaigata 埋立地視察



【目的】 技術協力プロジェクトの現場を視察し、急激な近代化に伴う廃棄物問題を知る。

日本の福岡方式が導入され、数年で改良された埋立地は、においもあまりなく、国際協力専門家の天野さんの話からも、JICAの功績は素晴らしいと実感した。ごみを焼却する日本の方法は、日本の経済力と風土によるもので、それをそのままサモアに導入できない現状も初めて理解できた。ごみの減量化について、サモアの人々一人ひとりが意識をしっかりと持たないとごみ問題は深刻化していくと感じた。（藤田）

国立公園・自然保護区視察



【目的】 サモアが抱える環境問題の現場を視察し、日本の協力や今後の課題について理解を深める。

施設整備に留まらず、利用促進（ガイド育成）・調査研究をしていた点に、好感を抱いた。気づかれないうちに今後失われていくであろう自然の調査や保全は、数十年後のサモアの人々から感謝され、尊敬される仕事であると思う。（西本）

JICA ボランティアとの懇親会



【目的】 JICA 職員やボランティアから、サモアでの活動における生の声を聴く。

今まで出合った協力隊の皆さんやJICA サモア支所の皆さんが集合。全ての方とは話しをすることができなかったが、皆さんのサモアへの思い、サモアの現状を聞くことができた貴重な時間だった。（瀧口）

7月30日(土)・31日(日)

ホームステイ



【目的】首都との違いやサモアの伝統的な生活・習慣などを体験し、理解を深める。

- ・ 星空が感動であった。
- ・ 食事をみんなでとるのではなく、家長と自分たちだけで先にとるのに、違和感はあった。みんなでワイワイ食べる方がやはり、楽しいと思った。
- ・ その家の人ではない人が、料理を手伝ったり、何かうろうろしていたりと地域コミュニティの深さを感じた。
- ・ みんなが気をつけてくれて、とても快適な楽しいホームステイになった。(小倉)

ウム料理



【目的】サモアの伝統的な生活・習慣などを体験し、理解を深める。

豚を料理するのをはじめて見た。自分が日本で食べている豚も同じように生きていたのだと思うと、自分が生き物の命を粗末にしていたと反省した。「命をいただく」ことを忘れてはいけないと思う。

炉を作るところから見せていただいたが、何一つゴミのない生活。自然のものを使い、使い終わっても自然に戻るものばかり。生活の知恵には驚くことばかりだった。(稲崎)

8月1日(月)

Aleipata 津波被災地視察



【目的】2009年サモア沖地震による津波の被害の現状を視察し、その現状と課題を知る。

校長先生より、津波時の様子を聞く。東日本の津波より犠牲者は少ないもののかなりの建物被害を受けたという。水の代わりにココナッツの汁を飲んで過ごしていたということを聞き、自然の恵みのありがたさを感じた。(瀧口)

JICA サモア支所(報告会)



【目的】海外研修での気づきや感じたことを振り返る。

他の6名の報告や相葉支所長の話聞きながら一番感じたのは、「感謝」であった。今回の研修に関わった人、出会った人に心から感謝した。(小倉)

2-3 事後研修

事後研修 8月27日(土)

① 資料整理・教材共有

講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト）

② 教師海外研修参加経験者の実践授業紹介

講師：大阪府立泉北高等学校 菰口修教諭
(2006 年度・教師海外研修・マレーシア参加)

③ ワークショップ

講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト）

- ・ 海外研修における経験の整理
- ・ 授業実践に向けたカリキュラム作り

約 10 日間の海外研修での学びや気づきを共有し、サモアから帰国後に改めて感じたことなど経験の整理を行うと共に、それぞれが持ち帰った資料・教材を共有した。また、過去に教師海外研修に参加した教員による実践授業紹介をヒントに、今後、本研修での学びをどのように教材化するのか、そのカリキュラムを具体化する作業を行った。



村の代表者（マタイ）たちによる伝統的な「カバの儀式」により迎えられた参加者達。
(首都アピア)